

社 会

研 究 協 議

司 会 ・ 菊 池 ふ じ の

講 師 ・ 松 村 康 平

津 守 真

菊池 私共がこのたび「幼児の教育内容とその指導」というこの冊子をまとめた動機や経過について、説明致します。

保育内容は、大正十五年の幼稚園令の發布以来、いわゆる五項目の時代が、長くつづいておりましたが、戦後昭和廿二年に、保育要領が文部省より発表され、それには十二の経験内容が示されてありました。最近文部省が中心になって幼稚園教育要領の委員会がもたれ、この保育内容についても審議され、大體、健康・社会・自然・言語・音楽リズム・

絵画製作の六つにきまつております。これらの六つの生活は、大人がわざわざとつてつけたものではなくて、日常の子供の、

自然の生活の中に見られるものであります。そして子供の生活の中では、音楽リズムの生活とか言語の生活とかいうように、劃然と分化してあるものではなくて、自然に自由に遊んでるの中に、観察の生活もあれば言語の生活もあり、社会の生活もあるといったふうで、あるものは実に混然とした未分化ないきいきとした実生活があるのみなのであります。これを私共大人が、考えるための便宜のために、こうした六つの分野にわけるのであることは、子供と親しく接しておられる皆様には納得のいかれることだと思います。

小学校では各教科がはっきりと分れており、それぞれの教科の内容も配列も研究され

系統立っておりますが、幼稚園の方はまだしっかりしたものができていないのが現状だと思ひます。

そこで私共は、なんとかすっきりした系統立てをして研究してみたいと思つて、当大学の児童科の先生方に相談をして、發達的な線を出して頂き、それについて具体的な経験の場、望ましい経験内容、更にその指導の仕方などについて、当幼稚園で今まで實際やってきたものをまとめたものが、この「幼児の教育内容とその指導」です。

それでは次に、この教育内容の社会の部についての大体を説明致します。それにつづいて、「社会」について、活潑な討議をお願い致します。

解 体 保 育 について

(質問) 私のほうの地域は、漁村、農村、家庭環境は職工。子供たちは遊びの要領を知らず、非文化的、粗雑な子供が多い。そのため、自由遊びを主にしてやつたが、組の間に對抗意識が出た。そこで解体保育を行つてみた。(四グループ、言語、積木、絵画、製作) その目的は、先生の独占をなくすこと、全先生の人格を全部の子供に吸収させることにある。結果として對抗意識はなくなったが、自分の子供が何をしているかわからない。先生の精神的身体的労働が多くなるという欠点が出てきた。この大きいやり方を今後続けるときかどうか伺いたい。(園児数二〇〇名)

(経験者の発表と意見)

1、食事のある日の午後(一週に二日間)解体保育を行ったが、他の組の子供の名前や性

質を知ることができ、又子供同志も広く交際できた。(園児数二六〇名、姫路の幼稚園)

が、自分の組の子供はいつも自分の視野の中において、気持の上で抱いていたというよ
うな気持の上から、(4)自分のしたいことをす
るという点で興味本位に流れすぎはしないか
などのいろいろの点から、よいことはいろい
ろあると思うのですが、当園では実行してい
ない。

3、入園希望者を全部取替している。そのた
めに自由保育ができず、週に何回か解体保育
を行う。子供の長所をよりよく伸ばすことが
でき、子供の性質を深く研究できる。

(意見) 解体保育は組や、更には幼稚園全体
の人数にも大いに関係がある。余り多人数の
ところでは、解体保育などは絶対にできな
い。

4、一年保育で二百名、一クラス五十名であ
る。地域環境は、農村、市が半々位である。
対抗意識をなくすために、一週に何回か朝の
集りをやる。(はじめのうちは回数を多くす
る) 子供と先生を一堂に集め、リズム、紙芝
居などをやる。(それぞれの先生の得意な部
門を各々受持つてやる) 一学期の中頃から時
間を十五分位にしてみた。

目的はいろいろあるが、結局は先生の人格、
又家庭の事情をよく知らなければいけない。
松村 それはなかなか実行しにくいことで、
解体保育をなさった勇氣に対して先ず敬意を
表す。この静岡の方は、解体保育をなさつ
た経験によって、今のところでは駄目だとい
うことに気がついた。又対抗意識を取り除く
ためには、子供の自発的に出てくる気持によ
って取り除くようにしたという御意見でし
た。この場合、先生が、自分の子供たちとい
う意識、先生の人格ということによって、問
題が発生する。このようなとき、子供中心か
ら、先生中心にうつすのはいけない。クラス
わけは、子供たちの要求によって出来た自然
発生的グループがよい。この自然発生的グル
ープは、それぞれの特性をもった特異な子供

野で子供に接することができるし、子供もま
た、自分たちの好むものを、最上に伸ばし得
るわけで、その点とてもよいことだと思つて
いる。しかし、(1)子供の集団の特質として、
自分は何組、何先生に所属しているのだとい
う所属の要求を満してやるという点でどうか
しら? と懸念されるし、(2)自分の受持の、
健康上、性質上気になる子供のあとを追うて
十分に見てやるということができないし、(3)
又これは少し先生の方の我儘かも知れません

たちのグループとする。
先生は、自分の得意とする技術担当をし
て、これによって組をつくる。その自然発生
グループに先生が出張して、万辺なく教育を
する、という形式がよいと思う。

津守 (1) 菊池先生の言われたように、子供が 自分のお家、自分のお母さん、いつかえつて きても自分の家があり、自分のお母さんが自 分を待つててくれる、という気持が欠けてこ ないだろうか。

(2) 各分野で子供を受持つときに、自分の受持
の分野以外に子供の心が向いたとき、その間
の連絡がうまくいかないのではないかと。
子供一人一人の特徴や性情を知ることができ
ず、自分の分野を通して子供を見ることがな
り、子ども自身よりも製作や音楽などが、直
接の対象になつてしまつてはならないか。

小学校との連絡について

(質問) 公立の幼稚園がなく、全部私立の幼稚園ばかり
の地方である。小学校に入学した場合、家庭からきた子供に
標準がおかれているため、一学期間ぐらひは、幼稚園からき
た子供は退屈を感じ、かえつて行儀が悪くなる。
もっと高いものを求めている子供がいる場合、伸びるもの
はもっと伸ばしていったら新しい面が開けると思う。小学校
との関連性が欲しい。

(意見) 1、小学校は義務教育であるから、 小学校の要求は当然強い位置を占める。私の 方では、三月初めと六月の二回、小学校の校

長先生、一年の受持の先生に来ていただいて、幼稚園の先生との話しあいをする。幼稚園、小学校各々の教育方針や要求などを話し合う。

この小学校の場合、生徒の半数以上が幼稚園児である。三年位続けているが、大変いいと思う。

2、家庭から来た子供の至らぬ点を見つけてはやしったり、先きばしつたことをするし、家庭から来た子供ほど、新鮮味がない、という欠点があるが、又、いい点としては、社会性に富み、クラスを中心となっている、などの点がある。

3、私立の幼稚園であるが、全く学区の幼稚園のようなものである。六月に小学校の先生と話しあいをする。小学校では幼稚園を経て入ったのを三組に平均にわけている。結果としてクラス全体のレベルが上ってきた。入学当初、幼稚園の雰囲気を出し、家庭からきた子供に馴れさせる。この場合、小学校の先生の受けとり方が非常によかったので感謝している。

4、小学校が2組ある。幼稚園から来た子供と、家庭から直接来たのに分けているが、幼稚園から来た子は、「お」をつけすぎる。又先生に慣れすぎている。又あまりいろいろなことを教えこまれすぎるといふことを

小学校の先生から言われる。

5、私の方では(静岡)五つの幼稚園が団結して、小学校に上つてからの各幼稚園による不均衡をなくすようにしている。又一人一人の幼児の特徴をこまごまと小学校の先生にお話しをする。

(質問) 特異な子供の性格を、小学校の先生にお話ししておくことは、入学後小学校の先生がそのお子さんを見るのに先入観になりはしないか、良い子の場合は支障もないと思うが、問題児などの場合にはどうでしょうか、問題児の取り扱いについて伺いたい。

(意見) 私の方では、(静岡)知能テストの結果、問題になる子供は相談所の専門家によく調べていただくようにしている。

津守 小学校との連絡問題について、小学校と併設せられ連絡のあるこのお茶の水ではどのようにしていますか、菊池先生お話しして下さい。

菊池 ここでは、小学校一年の受持が決まると、その方々は或る日、揃って、一日中幼稚園の、今度ご自分達の迎えられる幼児、即ち幼稚園の卒業する組の子供たちの生活を参観される。子供たちの生活ばかりでなく、保育室のしつらえや施設や備品などもこまかく見えていられる。そして当番の幼児たちが、張りきってみんなの世話をしたり、はつきりと挨拶をしたり、先生の手伝いをしたりするのや、食事前後の手洗い、うがいなどの励行さ

れているのを見て、「こんな風なのだから吾々の方でも考えなおさなくちゃならない。」とか、積木、絵本、ままごとの設備などを見られては、「小学校もこういうものを揃えておくほうがいい、少くも一学期は、こうした中で遊びの生活をさせなくちゃうそだなあ」などと話していかれます。事実一学期の間は、四十五分授業の中を廿五分位を授業時間らしくし、あとの廿分は組単位の自由遊び；他の組の邪魔にならないようにしながら——という幼稚園の形態をとっている。そして六月の末頃、小学校の先生と幼稚園の先生とが話しあいをすることになっている。ここでは小学校と幼稚園とはあまり問題はない。

文字の取扱について

(質問) 幼稚園で文字を教えるべきかどうか、父兄の要望は非常に強いのであるが、小学校の方では教えないでほしいと言っている。

(意見)

1、父兄の要望に負けないようにすることが大切だと思う。私の方では、三学期に、小学校の先生と父兄との連絡会を開き、父兄からの質問事項をまとめておいて、小学校の先生から直接に幼稚園の父兄に説明していただくようにしているが、大変に結果はよいと思つている。会の時期を三学期でなくもっと早くした方がよいと思つているので、今年からは

二学期の終り頃にしたいと思っている。

2、普通の公立小学校の場合は、自分の名前がわかる程度でよいが、特殊小学校へ入学を希望する場合にはそれでははいれない。かなり高度のテストがあり、幼稚園で教えないと家庭で方々のテストに連れていく。大学の附属小学校でも同様で、心理学者の意見と実際とは、矛盾しているようだ。

3、三年前には自分の名前ぐらいを教えてみた。二年前からは、ひらがなを教え、昨年からは、連絡会の結果教えなかったが、こんどは小学校の進み方が早くて子供がまごついてしまった。無理に教えこまずに、自ら事物をおして教えている。

4、自然な動機から、例えば看板や名前などから教えていく。

5、幼稚園は知識を教えるところではなく、生活経験を豊かにしていくところである。ある段階にまで発達している子供にはよいが、そうでない子供に無理にやる必要はないと思う。

菊池　ここでは、小学校からも何も要求してこないし、文字を文字として一斉に教えるということはやっておりません。しかし、生活を豊かにし、又刺戟を与えたりして、子供たちが自分から自発的に、文字を覚えたいと思うようになってくれることを願ひながら、絶

えず環境を工夫したり、しむけ方を工夫したりしています。

例えば、黒板に日や曜日を書いておく、とか携帯品置場に各幼児の名前を貼っておく、などもこの気持からですし、又七夕祭りの時など、短冊に字を書いてお星様に上げると字が上手になるんですって、などと伝説を聞かせながら子供たちの文字に対しての関心をいくらかでも目覚めさせようとは絶えずいたします。

×

×

×

×

(41頁よりつゞく)

松村明　親しみを乱雑な言葉づかいによって増すというのは、一応、言葉づかいと切離して考えるべきで、先生方は、地方の特色もありましょうから一概には言えませんが、出来るだけ正しい言葉で話して頂きたいと思ひます。

司会　両先生にはお忙がしい中を、又、先生方も最後まで御熱心に御発言・御討議を頂きまして有意義に終ることが出来、まことにありがとうございます。

(21頁よりつゞく)

○これから卒業までの一年をどの様に指導したらよいか。

とにかくどうやら遊べるようになったのでうれしく思うが、これからの一年間は更に一歩進んだ交友の指導をしなくてはならないと思う。

いつも限られたメンバーのグループであってはいけない。

性格的にも能力的にもかたよらぬ為。

席を時々変えたり、あそびの指導を工夫したり、五才児なら出来るグループの協同作業など、いろいろ考えていかなければならないと思う。

そして、いつも友達と一緒に遊べば遊びも仕事も遣入れない、というのではなく必要に応じては、一人でも落着いてすることが出来るし、遊ぶ時はどんとどんの仲間にも遣入って遊べるというようになる事を理想としていきたいと思っている。

以上つまらない事ばかり述べたが、過去一年間の、しかも自分の組だけの考察なので、必ずしも正確でないかもしれない事をお断りしておく。(お茶の水大附属幼稚園教諭)